

栄養やまぐち

(社)山口県栄養士会

〒753-0814 山口市吉敷下東3丁目1番1号
山口県総合保健会館4F
TEL:083-932-8015 FAX:083-902-7156
ホームページアドレス: <http://www.yama-ei.com>

新しい山口県栄養士会への理解と協力をお願い

公益法人移行委員会 委員長(組織部長) 松村 史樹

1 はじめに

寒さも若干弱まり、日もだんだんと長くなってきましたが、会員の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか？

さて、平成20年12月1日より施行されました公益法人制度改革ですが、移行期間終了の平成25年11月30日まで、ちょうど中間の年となりました。

法人移行についての説明も、栄養士会研修及び協議会研修等で随時お話ししてきましたが、会員のすべてに法人移行の目的と今後のあり方の理解・啓発が行えているとは言い難い状態です。そこでこの場をお借りして、改めて法人移行の目的と今後のあり方を説明させていただきたいと思えます。

この話は、ただ単に役員だけが知っていれば良いという問題ではなく、会員一人ひとりが栄養士会に入会している本当の意味を考えなければならない大変重要な問題です。面倒臭いと思われるかもしれませんが、入会されている栄養士はもとより、入会されていない栄養士であっても無視できない問題ですので、最後まで読んでいただきたいと思います。

(未入会の方がお近くにいらっしゃる場合には、是非読んでもらってください)

2 法人移行とは？

現在山口県栄養士会は社団法人（正確には特例民法法人）という法人格を持っています。社団法人格を有するという事は、無条件に社会に貢献している法人（公益法人）との位置づけがありましたが、改めて社会に貢献している法人なのか見直すことが必要となりました。これが公益法人制度改革であります。

なぜそういう考えになるのかと言いますと、法人収入にかかる納税率が一般法人に比べ社団法人は優遇されているという理由があります。つまり、税制優遇部分は本来ならば納税すべきお金であり、それを軽減するという事は国民の税金を無駄に使っているのに等しい行為との見解になるそうです。加えて、公益性を示せなければ、納税義務を果たさないということでもあります。

少し乱暴なこじつけですがしかし、ここで一つ考えなくてはならないことは、「栄養士会は本当に公益活動をしてきたのか？」ということです。社団法人山口県栄養士会定款の目的（必ず読んでください!）にも「**県民の健康増進と福祉の向上に寄与することを目的とする**」と書かれています。法律が変わる云々という問題ではなく、改めて私たち自身が私たちの活動を考えなければならないのではないのでしょうか？

3 公益活動とは

公益活動とは、読んで字の如く「おおよけ（公）にえき（益）をもたらす活動」です。加えてこれからの公益性とは「不特定多数の者の利益」を有することが定義となります。

今まで、私たちが行っていた活動は共益活動であり、主には自分たちの技術や知識のための研修事業です。考え方として、自分たちの技術や知識が高まれば県民への働きかけもレベルアップするので「おおよけにえきをもたらしている」と言えなくはないです。現に今までの社団法人山口県栄養士会は、共益活動をしていても税制優遇を受けていましたし、税制優遇を受けるということは公益法人であるという証しでもありました。

しかし、ここでまた考えてみてください。法律云々は別として、共益活動で技術や知識の向上が図れたとしても、定款目的である県民へ働きかけまでを考え、それを行っていたのでしょうか？また、今までの活動の中に、これからの公益性の定義でもある「不特定多数の者の利益」はあるのでしょうか？

公益とは他人に施すばかりで自分が損をすると思われる方もいると思いますが、発想を変えれば、今まで公に働きかけていないことで栄養士という資格の認知や必要性が薄かったとも言えます。公益性のある活動を進めていけば、自らが栄養士の地位向上に貢献できる活動となるのではないのでしょうか？

4 なぜ公益法人なのか

法人の移行先には「公益法人」と「一般法人（普通型又は非営利型）」とがあります。なぜ公益法人でなければならないのかという点については、主に3つのメリットがあります。1つめは、収入に対する税制優遇。2つめは、国が認定した法人としての価値。3つめは、会員自らが栄養士資格及び栄養士会活動を見直す機会が得られること。

もちろんデメリットもありますが、だからと言ってデメリットありきでの方向決めでは本末転倒ですので、あえて説明はしません。

さて、1つめの納税率ですが、一般法人は収入に対し最大30%の課税なのに対し、公益法人は公益目的事業における収入は非課税となります。会費と会員数を考えればその差は一目瞭然です。活動費が減ることは言わずとも、会の行動力低下につながります。

次に2つめの国が認定した法人としての価値ですが、国のお墨付きがあると言うだけではピンとこないかもしれませんが、公益法人格とは、ただ申請すればもらえるものではなく、いくら欲しくても簡単に手に入れることができないものなのです。それだけ申請及び認定のハードルが高くなりますが、公益法人格を得られれば信頼や社会的地位は一般法人の比ではありません。今は社団法人として無意識のうちに恩恵を受けていますが、仮に一般法人になった場合、無意識の恩恵がなくなるとどうなるのか？また、近しい職能団体が次々に公益法人に移行した場合、栄養士会及び栄養士の地位はどうなるのでしょうか？

3つめですが、上記の2つ以上に、自分たちのことを自分たちで見直す機会を与えてくれたことが最も重要なことではないのでしょうか。会員減少・研修参加者の減少等の問題が浮き彫りとなりつつある昨今、漫然と今まで通りの運営を続けるのではなく、目的意識をもった運営を改めて考えなければいけません。役員は会員の代表者ではありますが、会の運営を牛耳る存在ではありません。一人ひとりが会を背負っているという考えを持ち、会の運営に意見していただきたいと思います。

5 まとめ

公益法人になること・公益活動をすることは、最終的に自分たちの益として帰ってくることです。また、公益法人格を持つ栄養士会という存在と、公益法人格の維持を可能にしている栄養士という資格は、社会的にみても今以上に質の高い資格であるとの位置づけも得られるはずです。資格の価値が上がれば、医療・福祉等の関連法案を通す時にも有利に働くかもしれません。可能性論ではありますが、その可能性も一般法人では語れないものであることも確かです。

つまりは、会費を払って公益活動を行うことは、栄養士資格の地位向上に対する投資でもあるのです。**（未入会者の方は、そのことを十分に理解していただければ入会の意味・目的も変わるのではないのでしょうか）**

みんなで考え、みんなで行動し、栄養士であること・栄養士会員であることに誇りを持つようになりましょう！

最後に、公益法人移行についてのあれこれを書きましたが、決して会員へ向けた事業を行えないわけでもありませんし、行わないというものでもありません。

公益化を図る一方で、より一層会員サポートを充実させる研修（新人研修・リーダー研修など）も検討しています。こちらにつきましても、会員一人ひとりの力を借りなければならない場面もあると思いますので合わせて協力のほどよろしくお願いいたします。

植物油は脂肪合成を抑制する!!!

事業部 理事 溝田 美苗

平成22年10月9日、日栄委託事業として「食生活と植物油栄養に関する講演会」が開催された。午前中は会員栄養士を対象に「植物油の栄養問題を問い直す」と題して、帝塚山学院大学人間文化学部教授の入谷信子先生の講演が行われた。午後は県民公開講座として「知っておきたい植物油の基礎知識」と題した財団法人日本植物油協会理事の田口信夫先生の講演が行われ、会員外の方も参加された。

最近油の摂り過ぎや構成脂肪酸の一部の効果が強調され話題となっており、脂肪摂取をひかえる傾向にある。特定健診・保健指導、メタボリックシンドローム対策等に関する私たち栄養士にとって、植物油について再確認する機会であった。また会員外の方からも植物油について正しく理解することができよかったと好評であった。

入谷先生は「1990年代から低脂肪ブームとなり油脂が嫌われてきたが逆に肥満が増加した。40～74歳では男性の2人に1人、女性の5人に1人がメタボの該当者または予備軍であり、とくに内臓脂肪肥満から誘導される生活習慣病の対策が急がれている。一方、若い女性の痩せ過ぎが4～5人に1人で、異常な事態になっている。植物油は、脂肪合成を抑制し中性脂肪の量を調節しているのので、肥満、痩せの両者とも適正体重を維持するには、油の種類と量を選んで摂取することが重要である」と力説された。

植物油の適量摂取はアセチルC○Aの合成を抑制し、アセチルC○A→脂肪酸合成→中性脂肪の合成という代謝の流れをコントロールするため、中性脂肪の量を調節できるという説明であった。栄養指導の際、脂肪合成を抑制する植物油の適量摂取を念頭において取り組む必要があると感じた。

これからのアスリートを応援する スポーツ栄養公開講座を開催して

スポーツ栄養専門委員会 委員長 齊藤 恭子

山口国体を1年後に控え、飛躍期に入るアスリートのため、スポーツ活動に関わる選手、指導者、保護者等を対象としたスポーツ選手のコンディショニングと栄養管理についての講座を開催した。

講師の福岡大学准教授小清水孝子先生の講義は、スポーツ時における栄養のとり方や各スポーツに応じた食事のとり方等について、具体的な事例を交え、解りやすい内容だった。参加者の多くが栄養サポートの必要性を感じ、実践してみたいと思われたようだった。また、会場では献立例の展示や、栄養相談コーナーも設け、具体的なアドバイスも行った。

講座終了後、高等学校のスポーツ強化指定校7競技延べ13校よりサポートの依頼が有り、今後(財)山口県体育協会の医科学サポートとして、認定スポーツ栄養士が出向くこととなっている。

従来の強化チームへのサポート体制と異なるが、国体候補選手が所属しているチームが多い。

今国体を契機に、競技力向上の基礎として、栄養サポートを受ける人がひとりでも増える取り組みとなるよう、委員会としても支援していきたい。



講義風景
栄養士 44名
強化指定校関係者 33名参加



3500kcal
朝・夕展示献立見学風景



栄養相談コーナー
相談風景

「平成22年度第2回栄養士研修会」報告

下関支部 井町 清水

平成23年2月6日（日）山口県総合保健会館にて開催されました。まず、会員の資質向上及び相互の情報を共有するために職域の違う会員の研究発表がありました。

- (1) 「食を通して、豊かな心とからだを育む食育の実践」
学校健康教育協議会 柳井市立小田小学校 栄養教諭 平原みゆき 先生
- (2) 「若年期のメタボリックシンドローム予防事業を実施して」
行政協議会 山口県柳井健康福祉センター 管理栄養士 原田 理恵 先生
- (3) 「特定保健指導を実施して」
地域活動協議会 管理栄養士 長濱 美和 先生
- (4) 「山口大学医学部附属病院における摂食・嚥下チーム活動～管理栄養士の役割～」
病院協議会 山口大学医学部附属病院 管理栄養士 米田 妙子 先生 他7名

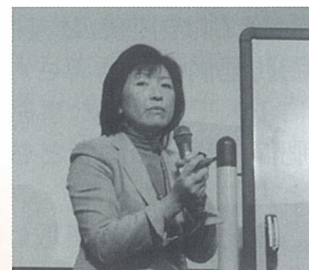
座長の乃木章子先生より発表についてのアドバイスや会場からの質問もあり、実践に基づいた研究発表はいずれも興味深い内容でした。最後に中村会長から栄養士会の動向として、管理栄養士は、まだ医療職として位置づけられていないが、管理栄養士のチーム医療における実証が今後の管理栄養士の地位向上につながることでチーム医療での位置づけを働きかけていくとのこと。各分野での管理栄養士にも求められるものは大きいとのことでした。

午後は、栄養指導を効果的に行うために他職種と連携、協働するうえで必要なコミュニケーションスキルを学ぶ講演がありました。

講演 「人が変わる、自分も変わるコミュニケーションスキル」

講師 山口大学医学部附属病院看護部 副看護部長 原田 美佐 先生

自分のコミュニケーションを振り返るためのツールとして（相手の言動）（自分の考えたこと）（自分の言動）を振り返りながら書く、プロセスコードから、気づき、アサーティブに意見を伝える方法など、事例をまじえての講演でした。職場の他職種とのコミュニケーションの問題をかかえている会員の声も聞かれ、伝える（事実、気持ち、挨拶）、ほめる、しかる、まかせるなどが大切なキーワードとして実感できたと思います。コミュニケーションのポイントは「聴す」ところ。最後に双方向のコミュニケーションの大切さを実習して研修会終了となりました。



生涯学習ってなんだろう？

生涯学習とは、人が生涯にわたって学び、学習への活動を続けていくこと、職業能力の向上となることにより、高度な知識や技術、生活上の教養や豊かさのために必要な教育を、生涯を通じて学習することだそうです。この生涯学習の概念のとおり、私達管理栄養士・栄養士が職業人としての倫理や、技術を身につけることができるのが、（社）山口県栄養士会の生涯学習研修会だと思います。

県外に行かないと聴くことができない先生や、県内の著名な先生方の講義を、近くの会場で、1単位千円必要ですが受講することができます。

さて、平成23年度生涯学習研修会の研修内容が、アンケート結果や各協議会より選出された委員により、ほぼ決まりました。血液検査結果などではなく、自分の目でみて触れて、ご利用者の状態を判断する「フィジカルアセスメント」や、施設がかわっても同じ内容の嚥下食が提供したいという思いから、「口腔機能」や「嚥下と嚥下食」の講義をしていただきます。また、昨年変更された糖尿病診断基準などの講義、食育では「お弁当の日」の竹下先生にお話をさせていただきます。必須では、「栄養マネジメント」と「仕事を評価してみよう」の2題でシンポジウムを計画しています。

これからの管理栄養士・栄養士に必要な生涯学習の内容と自負しています。平成23年度もたくさんの方に受講していただきますよう、紙面を借りてお願い致します。

生涯学習委員長 中谷 昌子



支部活動について

岩国支部活動

岩国支部 中津井 貴子
加藤 敬子

「しっかり食べて しっかり出そう！」親子料理教室の開催を通して

公益法人化に向かって県栄養士会が動き出している中、支部の活動についても公益事業を行う団体としての内容が求められている。

岩国支部は、参加希望のあった14組34人の親子を対象として親子料理教室を開催した。しっかり食べて、しっかり出すことの大切さを伝えるための講話、そして、地元のしゅんの食材をふんだんに使った調理を通してその意味を理解し、日常生活での定着化を目指した。



公益法人としての活動をアピールするため、この料理教室を開催するにあたり、支部会員のみならず岩国市の教育委員会や農林事務所、他の団体にも働きかけ、協力を得ることができた。

このことにより、岩国市地方卸売市場の見学や「ヤクルトらん知育教室」を加えたバリエーション豊かな内容とすることができた。そして何よりも、今後私たちが事業をすすめるにあたり、強力な協力者を得る契機となったのではないかと思う。これまで栄養士会というと、7つの協議会で組織し、それぞれの分野での専門性を高めてきたが、それをいかに活かしてその地域の社会貢献へと繋げていくかが今後の栄養士会存続のカギとなってくると思う。

北浦支部活動

北浦支部 市原 美千子

山口県栄養士会北浦支部の活動を紹介します。

北浦支部は現在、会員数98名です。

支部活動では実行委員会を作っており①ふるさと祭り②生活習慣病予防講座③研修会④組織強化があります。

それぞれの実行委員会ではリーダー、サブリーダーを含め、5名～10名で構成されています。

◎ふるさと祭り……………長門市、萩市のふるさと祭りに参加しています。
内容は野菜の花当てクイズと野菜バイキングです。
栄養士参加者25名、来場者437名でした。

◎生活習慣病予防講座…長門市、萩市計5カ所、地域の方と一緒に調理実習を行い、生活習慣病予防のための講座を実施しています。



今回のテーマは「食べ力が底力」バランスよく、食事を摂ることで、より健康的な生活を目指すことを目的としています。

メニューは菜めし、豆腐入りロール白菜、ともあえ、もずく酢のかき卵汁、フルーツヨーグルト

栄養士参加者23名、地域の方59名。

◎研修会……………年2回実施しています。
第1回目は長門市俵山にてそば打ち体験と試食会を行いました。

地元で採れたそば粉を使ってのそば打ち体験です。
栄養士参加者23名

第2回目の研修会は総会を兼ねて行われます。

2月26日に萩市保健センターにて「口腔ケアと食」と題して講師 南崎歯科医院 南崎信樹先生をお迎えしての研修会です。

◎強化……………年2回の広報誌「北浦だより」を発行しています。
各実行委員会からのお知らせや新入会員の紹介など載せています。



終わりに

私が北浦支部長になって感じたことは、会員間とても仲が良いことです。そして、支部の運営は会員の皆さんの協力なしでは出来ないこと、皆さんの協力で出来るということを感じました。

皆、職場は違うけれど同じ栄養士、横の繋がりを大切に、親睦を深めたいと思っています。



平成22年度 学校健康教育栄養士協議会 研修会を受講して

山口市立小郡学校給食センター 栄養士 杉村 和美

講師 / 山口県立大学 看護栄養学部 栄養学科 教授 長坂祐二先生

講演Ⅰ 「よい脂肪・悪い脂肪」

「欧米人に比べて、日本人は高度な肥満が少ないのに、糖尿病の発症率が高いのはなぜ？」「肥満者が必ず糖尿病になるわけではなく、痩せていても糖尿病になることがあるのはなぜ？」日本人は粗食に耐えた民族です。もともとインスリンの分泌能力に欧米人ほど余力がないためです。それに加えて、食生活の欧米化や運動不足、ストレスなどが糖尿病の要因ではないでしょうか。また、肥満度と死亡率をみると小太りの人が長生きであること、心不全患者をみると痩せている人の死亡リスクが高いこと、飢餓を体験した妊婦の子は肥満・糖尿病等を高率に発症することがわかりました。脂肪は美容の大敵ですが、年齢とともに上手に付き合っていきたいですね。

講演Ⅱ 「生活習慣病とその改善プログラム」

山口県立大学における「すこやかセミナー」での取り組みを紹介していただきました。とりわけ健康行動理論は興味深いものでした。

「わかっちゃいるけど、やめられない♪」楽な方へ行くのが人間行動。我慢はストレスをもたらす、ストレスは生活習慣病を招きます。生活改善は、我慢せず、楽しみながら取り組むことが大切です。例えば、無理のない目標を2つか3つ決め、周囲に自分のことを話して協力を得る事などです。

「目標設定ツイストとスクワット1分1日5回！」
「日々の記録表を作ろう！」「3ヵ月達成できたら主人にご褒美に〇〇を買ってもらおう！」などと、ほくそ笑みながら帰途についたのでした。未だ準備期間中ですが…。

～本質を伝えることの大切さ～

福祉協議会専門委員 矢野 裕美（大内すこやか保育園）

平成22年度第一回山口県栄養士会福祉協議会研修会が平成22年11月20日（土）山口県セミナパークで行われ、福祉協議会会員27名が参加しました。

午前の部では山口大学教育学部家政教育講座教授 山田次郎先生をお迎えし、「栄養と健康」という題のもと食育・栄養の考え方や食事の在り方についてそれぞれの本質についてご講演いただきました。

子どもたちには命について考える、命を大切にすること、命を慈しむ、命に感謝するなど食をテーマに命を教えることが大切であり、命を教えることが食育の本質であるということ。家族全員で食卓を囲むことは両親や兄弟との触れ合いから学校や社会へのコミュニケーション能力を養うこと。また食事は親からのメッセージ、愛情というエッセンスが入ったすばらしいメッセンジャーになることを学びました。

午後からは山口大学大学院医学系研究科教授 山根俊恵先生をお迎えし、「精神疾患とその対応」について学びました。

精神疾患には、うつ病（気分障害）、総合失調症（精神分裂病）、神経症性障害（パニック障害、恐怖症、強迫性障害など）、認知症、薬物・アルコール依存症からの人格障害などさまざまな心の病があります。その1つ1つの病について症状経過や治療の流れ、抗精神病薬の作用や副作用、行動特性などを学びました。さらに施設に入所されている認知症の方のさまざまな事例や対応方法などをとても丁寧に説明して頂きました。

私たちは、この世に生を受けて、やがて老いるまで、一日たりとも「食」という事柄と関係なく生きていくことはできません。乳児、幼児、学童、成年、高齢者のそれぞれに対応したより適切な「食」環境を作っていくことはとても重要なことです。そのためには、それぞれのライフステージでの栄養の本質を「体」と「心」の両面からしっかりと理解し、それをわかりやすく伝えることが大切です。それができるのは「食」の専門家である私たち栄養士・管理栄養士ではないでしょうか。

ワンポイント アドバイス

SOAPを活用して栄養指導報告書を書いてみましょう!!



今回は、SOAPを活用した記録の例をご紹介します。

患者氏名：A. Y. 年齢：44歳 性別：女性 職業：主婦
 家族構成：夫（45歳 会社員）、子供1人（18歳男 高校生）
 身長：156cm 体重：68kg TC：240mg/dL TG：200mg/dL 血圧：162/96
 指示栄養量 エネルギー：1500kcal たんぱく質：60g 脂質：40g

★初めて栄養指導を受けたとき、次のように管理栄養士に話しました。

「2週間前から腰痛、頭痛が続くので診察を受けたところ主治医から肥満と言われ、栄養指導を受けるように言われました。食べることでいろいろ言われるのは好きではありませんが、とりあえず食事記録表を持って来ました。いつも朝食は食べません。魚でも肉でも食べますが、好物は、揚げ物や炒め物、サラダなどの油ものや果物、甘いお菓子類です。どちらかというと野菜はあまり食べません。昼は一人なので、お友達と買い物に出かけたときは外で食べます。よく食べるものは、オムライスや Pasta、グラタン、ピザなどです。家で食べるときは、残り物や麺類を食べますが、ご飯はあまり食べません。間食は午後1回程度で甘いお菓子と紅茶やコーヒーです。紅茶やコーヒーには砂糖やミルクを入れます。運動は、夕食後に散歩を30分し、散歩後には必ずスポーツドリンクを飲みます。」

★管理栄養士が患者の持参した食事記録表から摂取栄養量を算出した結果（平均）

エネルギー：1900kcal（35.5kcal/kg標準体重）たんぱく質：85g（1.6g/kg標準体重
 たんぱくエネルギー比18%）脂質：60g（脂質エネルギー比28.4%）

☆SOAPを活用して栄養指導報告書を書いてみました。

S) 2週間前から腰痛、頭痛が続く。医師の指示により栄養指導を受けにきた。食べることでいろいろ言われるのは好きではない。

O) 職業 主婦、身長156cm、体重68kg、BMI28.0kg/m²、夫・子供と3人暮らし
 TC：240mg/dL、TG：200mg/dL、血圧：162/96 食事記録表から栄養摂取量：エネルギー=1900kcal、たんぱく質=85.0g、脂質=60.0g 嗜好：油料理や甘いものが好き、朝食を食べない。紅茶・スポーツドリンクを毎日飲む 運動 夕食後に散歩を30分。

A) BMI28.0kg/m²と肥満。TC、TG値も高値。摂取エネルギー=35.5kcal/kg 標準体重、脂質エネルギー比=28.4%と高値。野菜、キノコ、海藻など食物繊維が不足。朝食を摂取していない。全体的に食事のバランスが悪い。

P) 朝食を摂取する。毎食「主食+主菜+副菜」の3点セットで食べる。油を使った料理は1日に1皿分のみにする。紅茶やコーヒーには砂糖を控えてみる。運動は今実行している程度を継続する。

主治医への提言

・患者の食生活から、目標体重を60kg（BMI24.7kg/m²）、エネルギー=1600～1700kcal、たんぱく質=70g、脂質=45g にすると実践可能と考えます。

（田坂 克子 記）

事務局より

「平成23年度 山口県栄養士会通常総会及び栄養士研修会」のご案内

日時 平成23年5月21日（土）10:00～

場所 山口県総合保健会館 第1研修室

山口市吉敷下東3丁目1番1号（事務局）TEL083-932-8015

4月に開催案内（詳細）を送付いたします。多数のご参加をお待ちしています。

新発売
プリベント®
オリゴ糖
シロップ



ビフィズス菌を増やす乳糖果糖オリゴ糖

数多くの臨床研究で有効性が確かめられた乳糖果糖オリゴ糖を高純度で含有しています。

便利な分包タイプ

1包 (7g) でラクトスクロース3.6g、13kcal。

料理や飲み物に入れるだけ



H+B 株式会社H+Bライフサイエンス (林原グループ)
 LIFE SCIENCE 〒700-0903 岡山市北区幸町8-29 三井生命岡山ビル

お問い合わせは TEL.086-224-3564

厚生労働省・農林水産省認可 全国病院用食材卸売業協同組合会員 治療用食品販売



五 株式会社 くりもと めぞめち ひょうてん
栗本五十市商店

たんぱく調整食品・カロリー調整食品
 介護食・流動食 等さまざま食品を
 取り扱っています。

詳細につきましては下記までご連絡ください

本社:0827-57-7233

山口営業所:083-988-2680

通販専用 TEL:0120-723-317



おいしさと健康
Glico



身体に吸収されやすいミルクカルシウムが普通牛乳の1.5倍、普段の食事では摂取しにくい鉄分が1本当たり1.5mg含まれています。食事管理をされている方のバランスのとれた献立づくりに最適です。

カルシウムと鉄分の多いミルク180ml
 栄養機能食品

毎日の献立に
 加えてあげてください。



グリコ乳業株式会社 <http://www.glico-dairy.co.jp>